



嘉永癸丑初春發兌

敗將百草五色石基

柳下亭種負作

一雄齋國輝画

第五編

第六編

へ 13
3729
5



第五編 女 郎 花
基 五 色 石

一 雄 齋 画

柳 下 亭 作



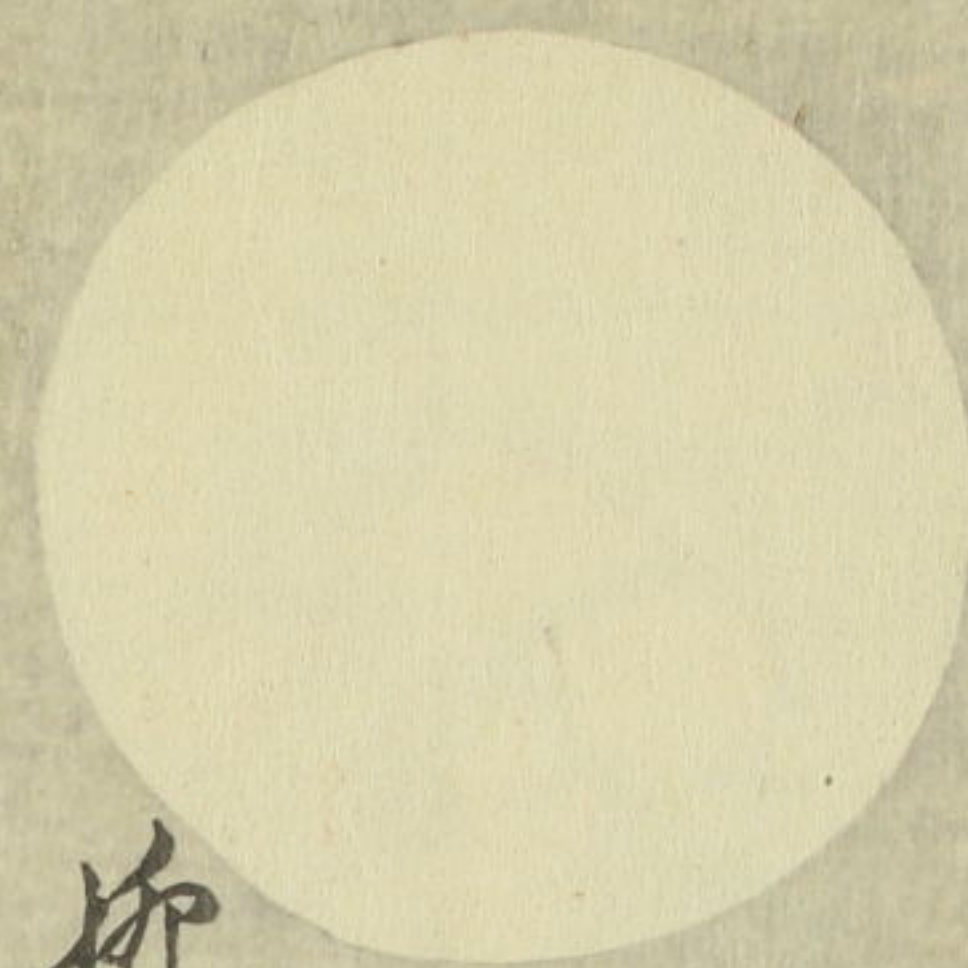
表 題 曲 乃 旦 國 画

門へ13
號3729
卷5

甘泉堂梓

大志き心

世の事



柳下亭種負化
一姓富國群画

才五公篇
下冊

女良花五色石基第五集序

山小渾金有砒石有海小珊瑚
わり野小香蘭の百部の
おとも僕も亦小説家の端尾あり同地小産くと美悪ある同業小と
高拙ある懸隔既如此是敗將西の曲叟が老後小著述策子より
世評も殊小感ありじが花實未全うらを可惜大筆も真毛の絶る期ありて
在命没ぬひまを甘泉堂五色石基の全部にて江湖小埋れ事と
深く歎し其嗣編を己小任用嗚呼金玉小瓦礫を代文木小散木を
接小等と所業あるの書肆か需の固辞しかく此小及べ看官
察しと拙さを只管免しとす

嘉永癸丑歳春王正月

柳下亭種員識





狗神の怪異

その月
老女の
鏡哉

惟光三郎棟利の全
全四郎經利



賊主蒼海王の
老母暴潮

七良村五郎

女郎花五郎

海賊の張本

蒼海王

悪五郎

範純

恋の心絨

誰と呪

杉原紙

妹が筆

勇婦

八九邑のこま

小萬





右三句
倣曲亭翁口調
作者
自唸

稲の波
御とよ
つら
むら
ま光

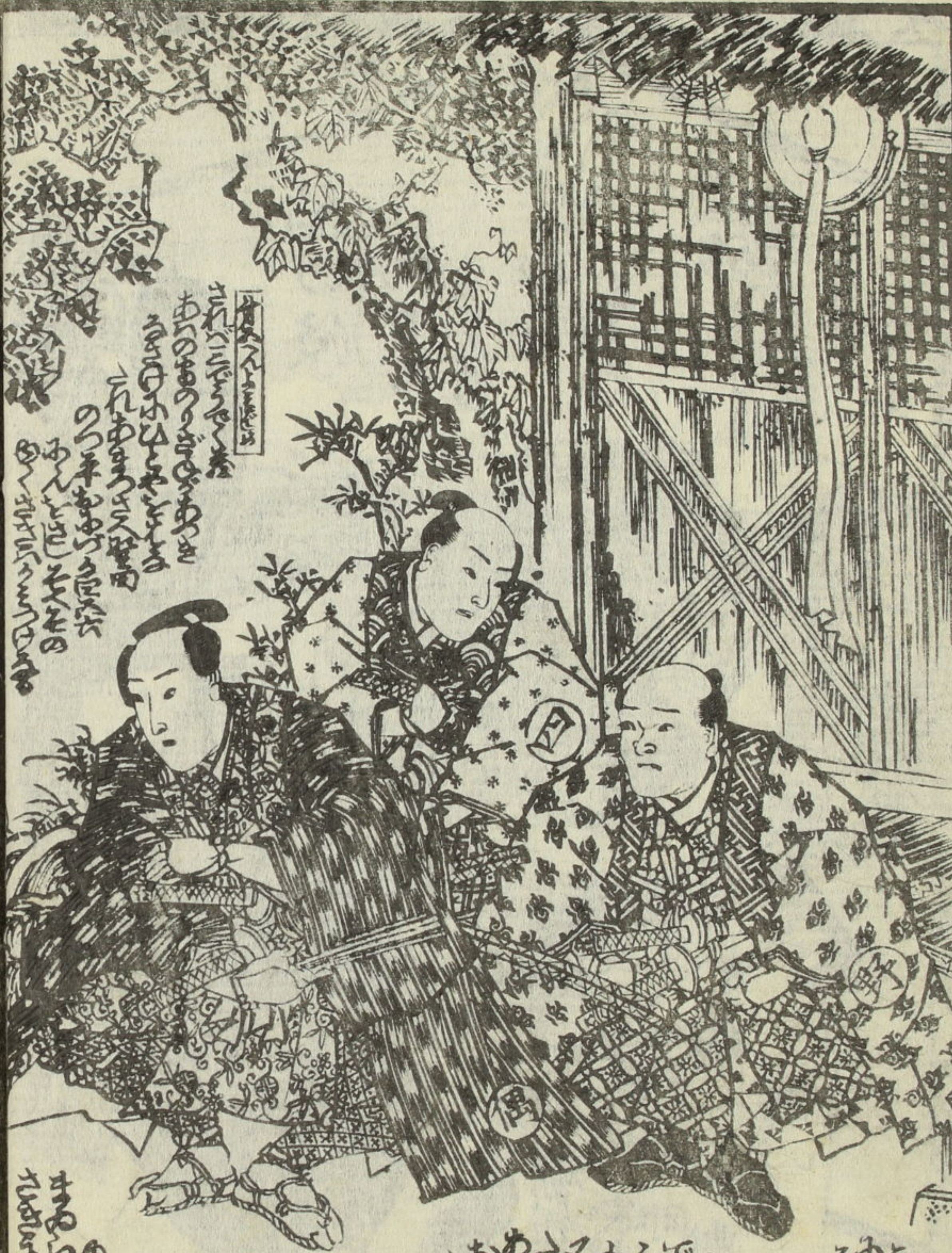
湯南東海
家来
間村
曲平

女
婦
老
政

赤松家の柱臣
三石将勝の
長子
坂手小太郎
将秀

湯南東海
家来
横筋
蓮六

女
郎
花
五
郎



Handwritten text in the upper left of the illustration, including the name 'Kikyo' and other characters.

Handwritten text in the lower right of the illustration, including the name 'Kikyo' and other characters.

Handwritten text in the upper left of the page, including the name 'Kikyo' and other characters.

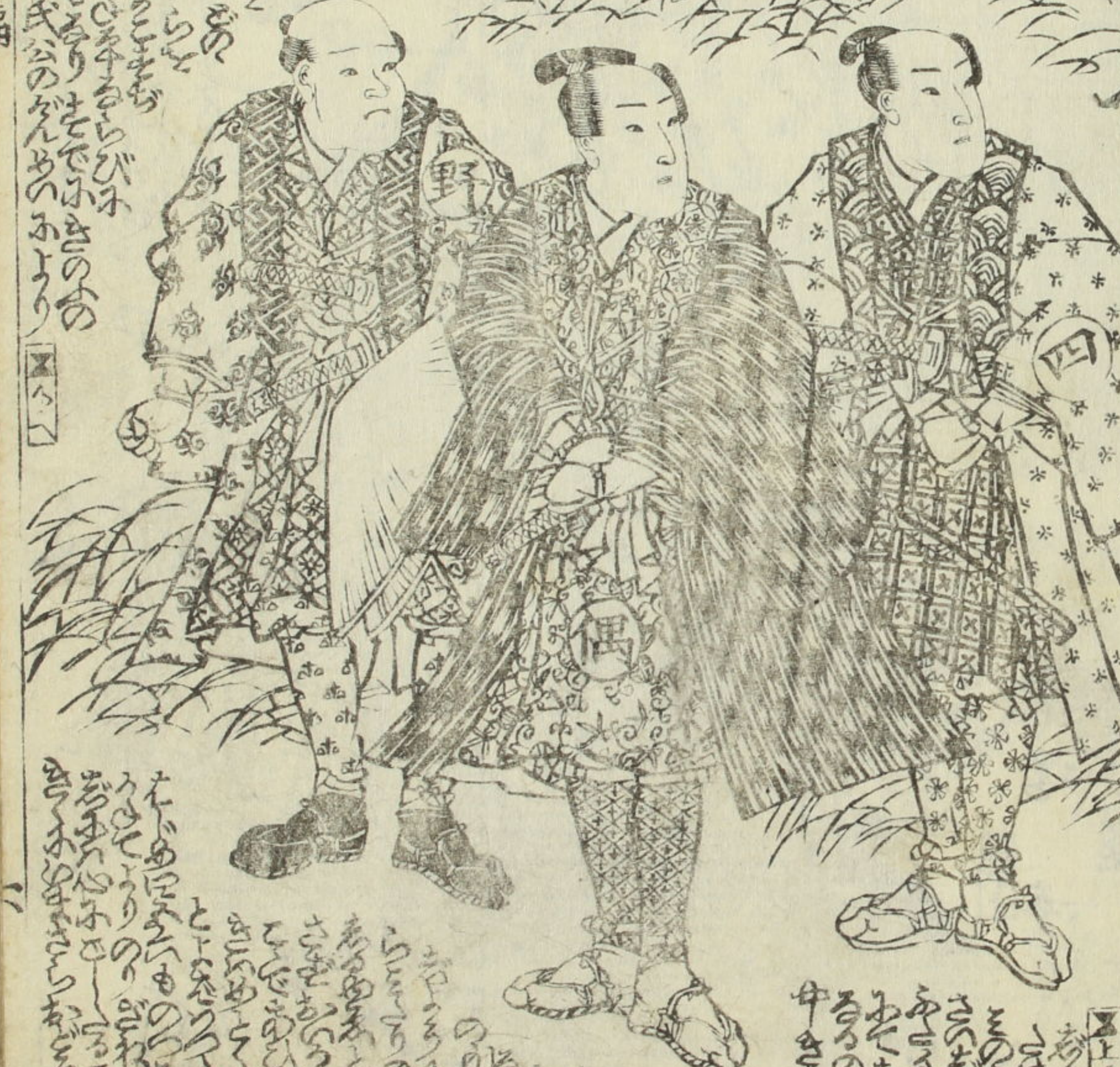
Handwritten text in the middle of the page, including the name 'Kikyo' and other characters.



Handwritten text in the lower right of the page, including the name 'Kikyo' and other characters.



Handwritten text in a vertical column at the top of the left page, likely a title or introductory notes.



Handwritten text in a vertical column at the bottom of the left page, providing commentary or a narrative for the illustration.

Handwritten text in a vertical column at the top of the right page, continuing the narrative or commentary.



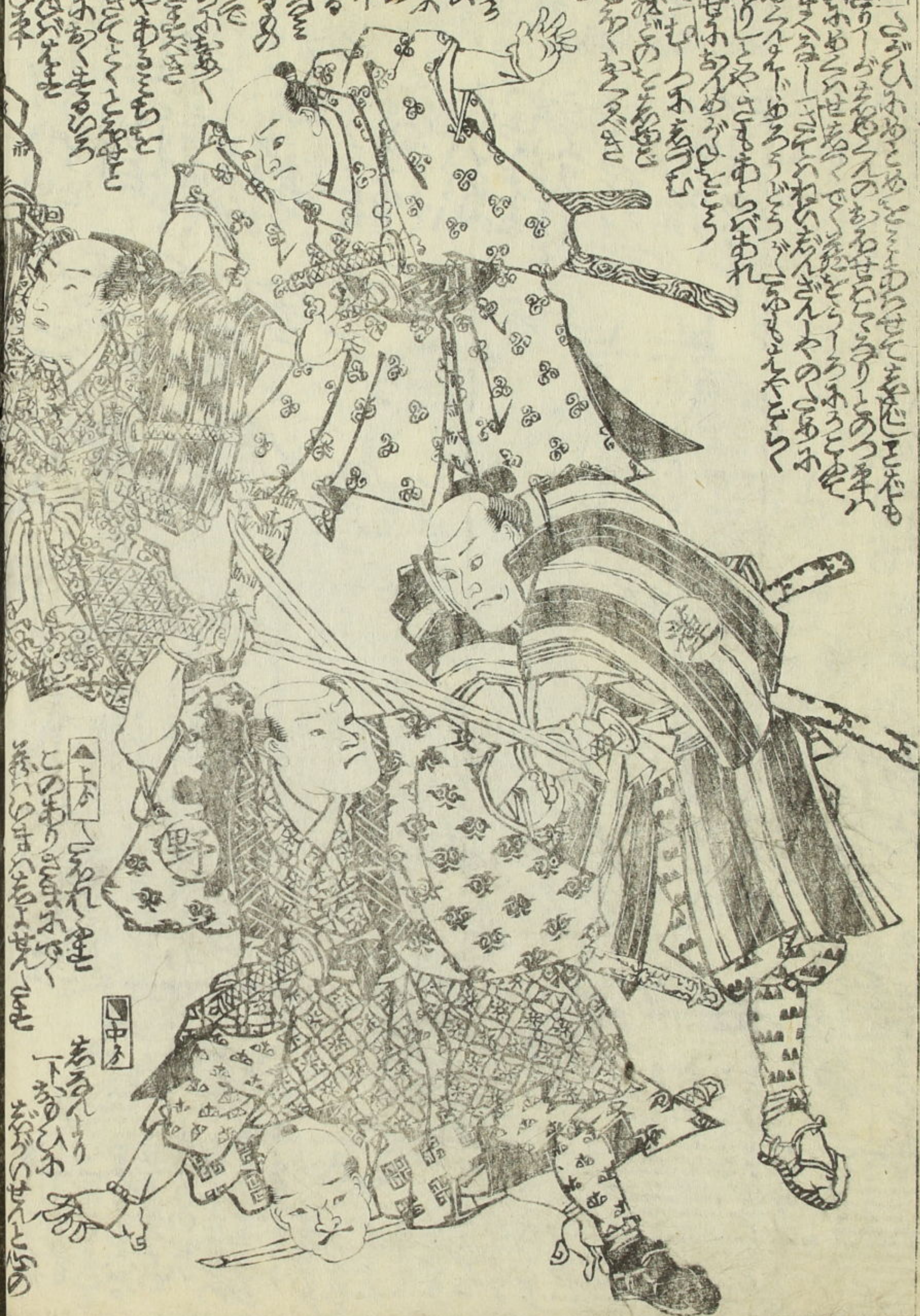
Handwritten text in a vertical column at the bottom of the right page, continuing the narrative or commentary.



Vertical text on the right edge of the right page, possibly a page number or a reference.

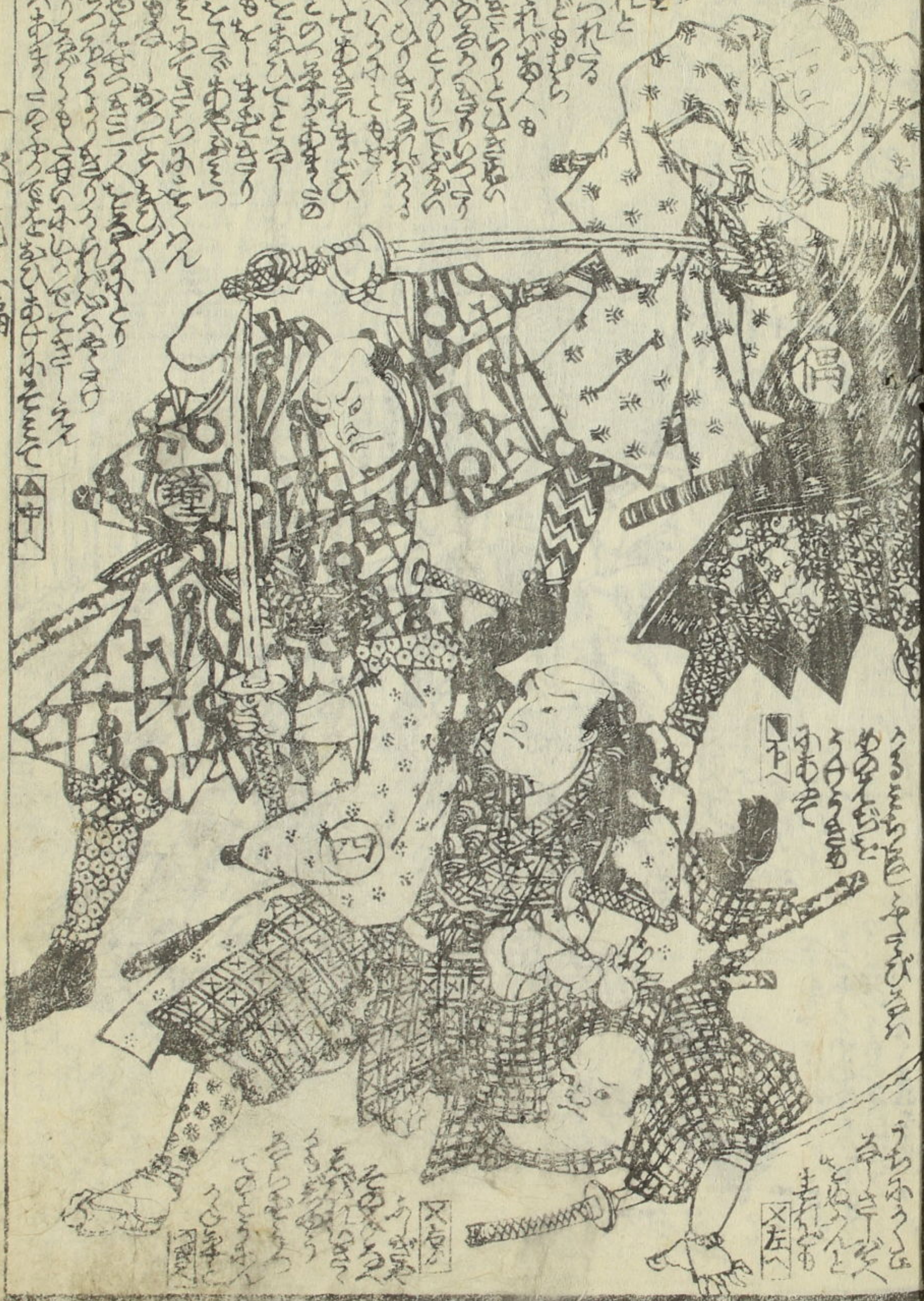
Small vertical text at the bottom right corner of the right page.

Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, likely identifying the figures or scenes depicted below.

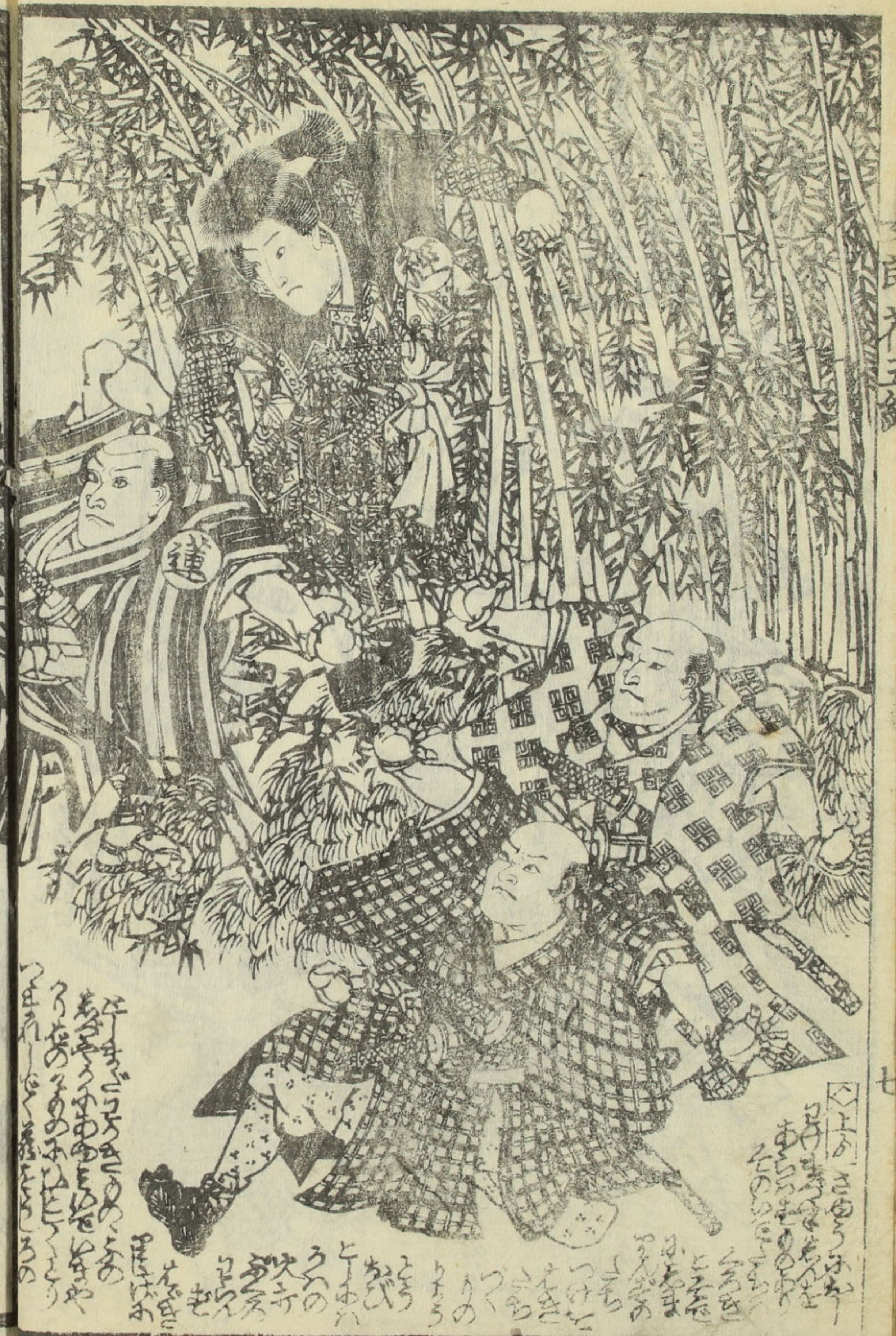


Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page, possibly providing commentary or further identification.

Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, continuing the descriptive or narrative text.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page, continuing the commentary or narrative.



五郎 五郎

Handwritten text in the top right corner of the right page, including the name '五郎'.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page.

Handwritten text in the top left corner of the left page.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page.

女官の玉綴

至孝の心
先君の徳
これより
そなたに
おまかせ
申す



先君の徳
命の御
おまかせ
申す

先君の徳
命の御
おまかせ
申す

先君の徳
命の御
おまかせ
申す

先君の徳
命の御
おまかせ
申す

至孝の心
先君の徳
これより
そなたに
おまかせ
申す



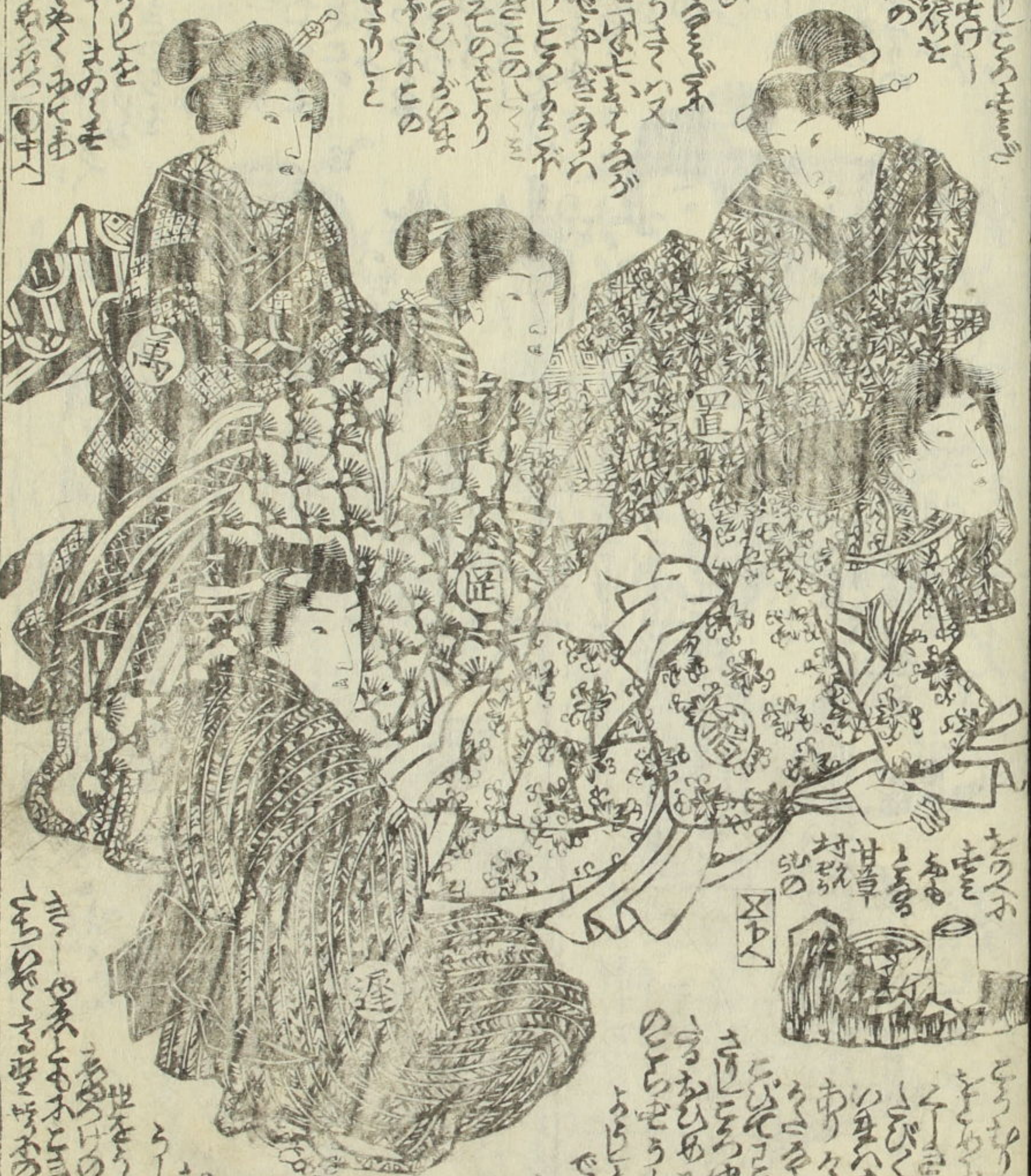
先君の徳
命の御
おまかせ
申す

女官の玉綴

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a play script or commentary, located on the right page of the manuscript.



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a play script or commentary, located on the left page of the manuscript.





五
 此の如き事は
 世に於ては
 稀なる事なり
 然るに此の如
 き事は世に於
 ては稀なる事
 なり然るに此
 の如き事は世
 に於ては稀な
 る事なり



此の如き事
 は世に於ては
 稀なる事なり
 然るに此の如
 き事は世に於
 ては稀なる事
 なり然るに此
 の如き事は世
 に於ては稀な
 る事なり

種員作

ついでにちやうのびをとりこころをり
 えあふらふとせしむるにせむるに
 そつちやくのちやくがくしんも〇や

藤王産生肌膏 一貝 世六孔
 やけいさうきせき二切のちやくも
 ちやくのちやくのちやくも

金齋奇功紙 一枚 世六孔

ちやくのちやくのちやくのちやく
 ちやくのちやくのちやくのちやく
 ちやくのちやくのちやくのちやく

製菓房
 新嘉坡
 五樓

取次所 柳下亭
 直吉東毛塚

國輝画



浄書心酔

〇上方のちやく
 きくちやくのちやくのちやく
 ちやくのちやくのちやくのちやく
 ちやくのちやくのちやくのちやく



女房
 五巻

石巻

第四集上巻

庚戌冬巻

新刊

甘泉堂梓



女郎花

五色

石臺

第六編

上册

國粹畫

種員作

甘泉文庫



女郎花



甘泉文庫





女郎花五色石集編

國輝画

種員作

表題由五國製

春ふ長き物も何々ぞ果かく引る八重霞その空中に操いど
 と幼童遊びは風箏の糸並ぶ軒端の注連繩或ハ鮎賣の後引
 聲ふどいづも長き東西の未をきよりとながら巻中よ在
 芦平と於段が昔譚真中ハ此六編よ載まじ首と尾と六七編と五編
 よ垂たる話の形容を擬てまうらんハ拜年客よ差ぐると橐盤の上
 小布たる長熨斗め多々季弊もをえて讀せしむる扱をながりと
 各位の呆て玉掌を打蛇真珠の光明作意ふるんれハ阿波の男狭磯
 が故事とハ遠く違ど彼國よ近き淡路島よ蒼海王が生立の一段
 紙綴最々長き春日日愈伽草おとく四方ふ鬻なり

嘉永甲寅木玉月



柳下亭種員誌



をみ

春

ぶ

を

を

六

冊

多

を

画

化

和泉屋板



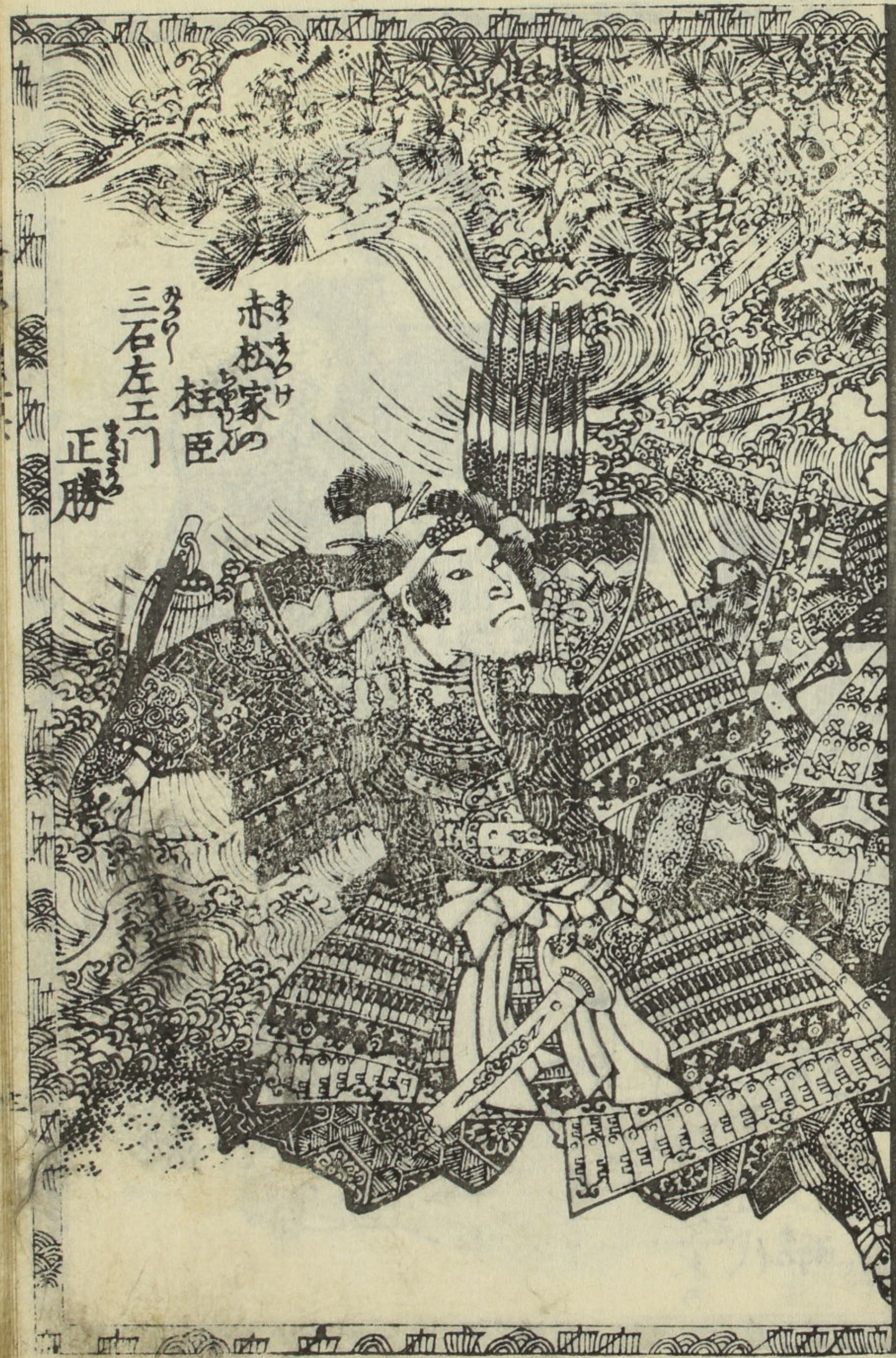
引砂の松乃
春風ふき巻
て尾上の鐘を
ひくさり

あへん
蘆平が老妻
於葭

てあは
手嵐
半七の
渾家
於花



ちりせの糸ありのうら
播磨國明石浦多
茶廊の老父
蘆平





宗景の傍妻

繪嶋

鳴呼
四郎



淡路國領主
津名兵庫助宗景

津名家の
目代
兩代
谷

女将

一の美しき山ありて
 人々の心をなやませ
 けしきもまためでたし
 山は人の心をなやませ
 けしきもまためでたし
 山は人の心をなやませ
 けしきもまためでたし

二の美しき山ありて
 人々の心をなやませ
 けしきもまためでたし
 山は人の心をなやませ
 けしきもまためでたし
 山は人の心をなやませ
 けしきもまためでたし



三の美しき山ありて
 人々の心をなやませ
 けしきもまためでたし
 山は人の心をなやませ
 けしきもまためでたし
 山は人の心をなやませ
 けしきもまためでたし



一の美しき山ありて
 人々の心をなやませ
 けしきもまためでたし
 山は人の心をなやませ
 けしきもまためでたし

二の美しき山ありて
 人々の心をなやませ
 けしきもまためでたし
 山は人の心をなやませ
 けしきもまためでたし

三の美しき山ありて
 人々の心をなやませ
 けしきもまためでたし
 山は人の心をなやませ
 けしきもまためでたし



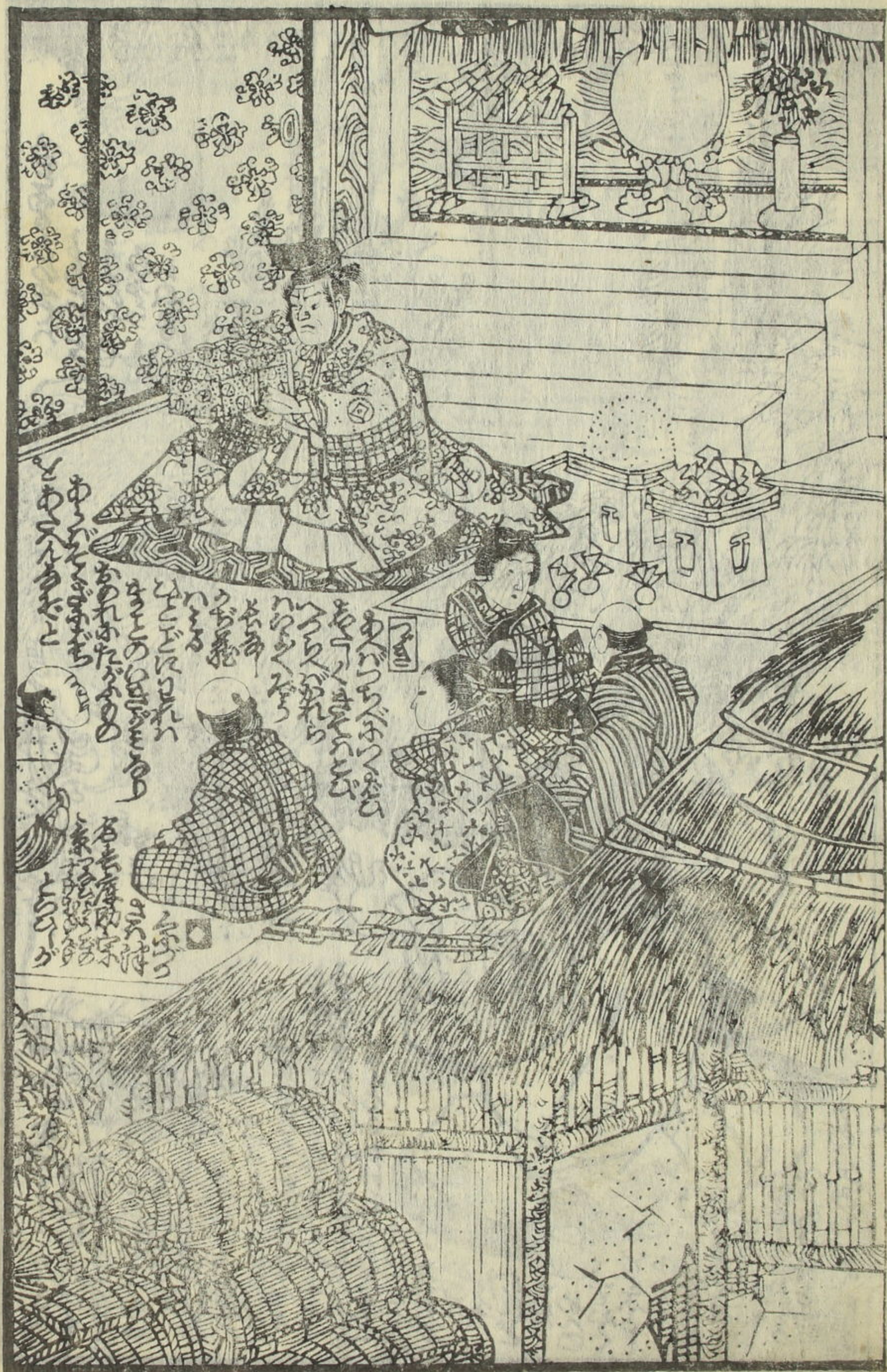
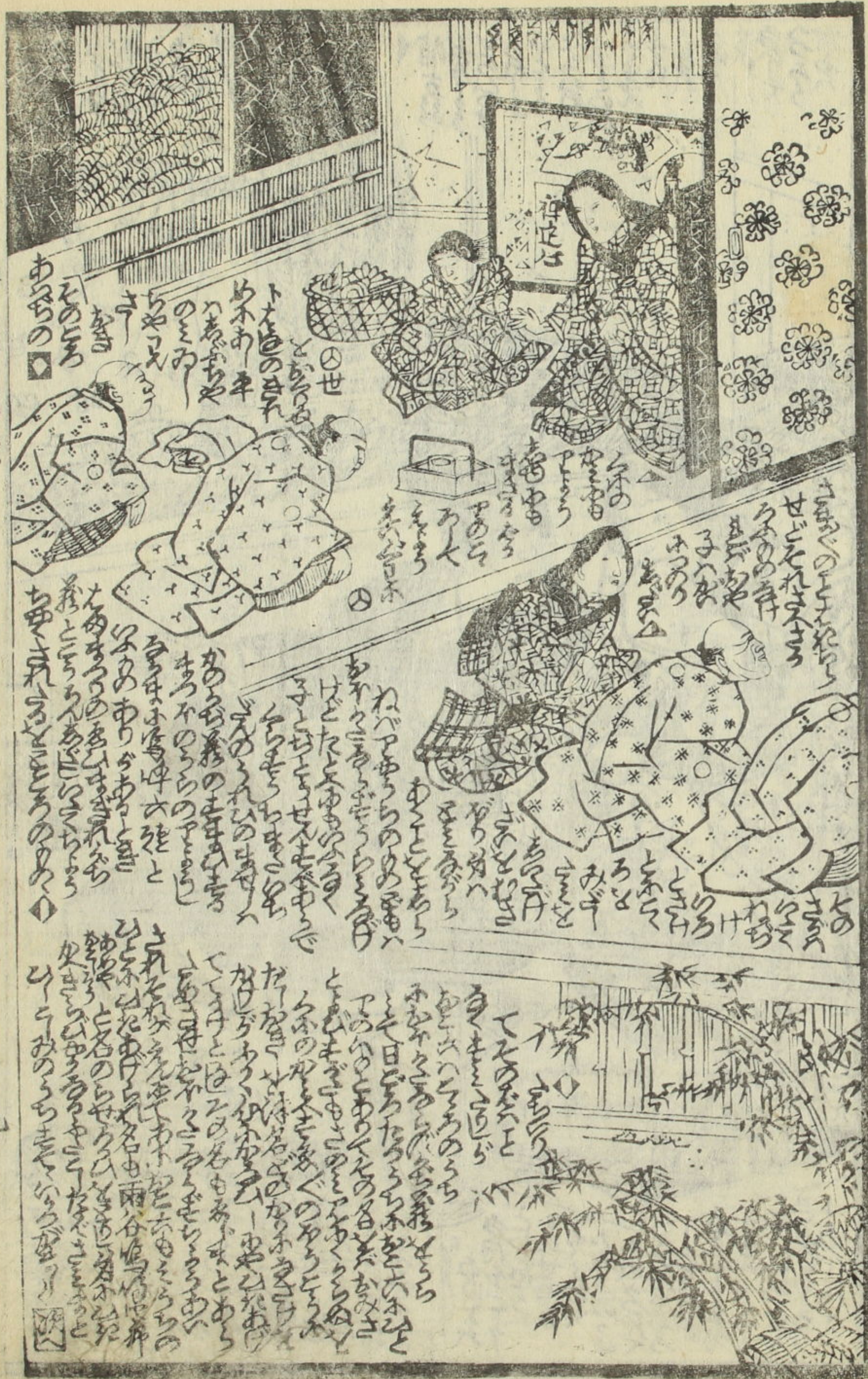
木立の
 深き
 谷
 の
 中
 に
 木
 の
 影
 が
 長
 く
 延
 び
 ぬ
 べ
 だ
 り
 と
 言
 へ
 る
 也

魚
 の
 大
 き
 さ
 は
 一
 丈
 有
 り
 云
 へ
 る
 也
 此
 の
 魚
 は
 山
 魚
 の
 一
 種
 也
 其
 の
 味
 は
 甘
 味
 有
 り
 且
 ち
 肉
 が
 厚
 く
 味
 が
 旨
 味
 有
 り
 故
 に
 人
 々
 が
 好
 む
 也



女
 の
 姿
 は
 美
 麗
 極
 め
 る
 也
 其
 の
 衣
 着
 は
 華
 やか
 極
 め
 る
 也
 此
 の
 女
 は
 山
 女
 の
 一
 種
 也
 其
 の
 性
 格
 は
 剛
 毅
 極
 め
 る
 也
 故
 に
 人
 々
 が
 敬
 重
 せ
 る
 也

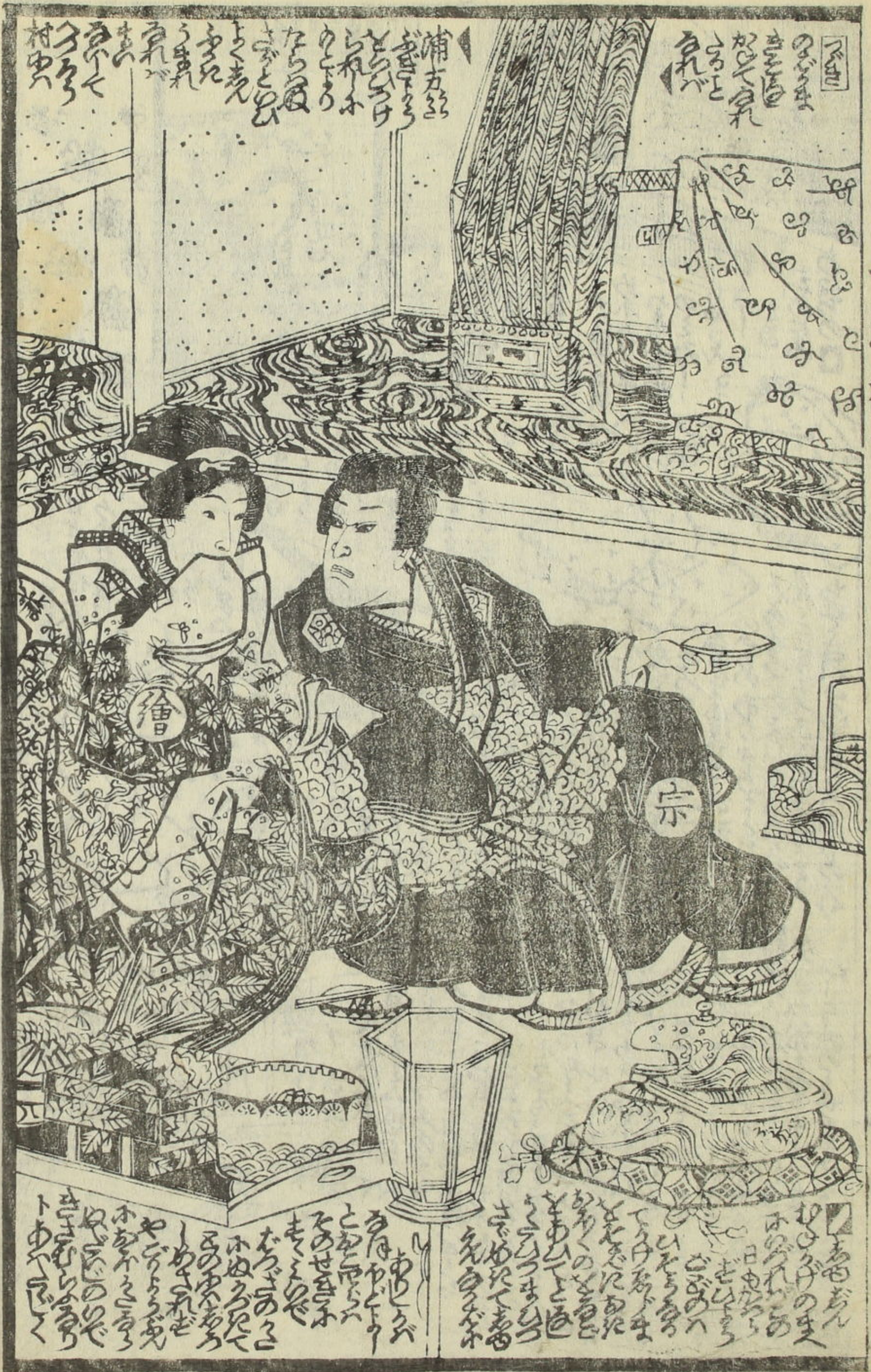
此
 の
 女
 は
 山
 女
 の
 一
 種
 也
 其
 の
 性
 格
 は
 剛
 毅
 極
 め
 る
 也
 故
 に
 人
 々
 が
 敬
 重
 せ
 る
 也
 此
 の
 女
 は
 山
 女
 の
 一
 種
 也
 其
 の
 性
 格
 は
 剛
 毅
 極
 め
 る
 也
 故
 に
 人
 々
 が
 敬
 重
 せ
 る
 也



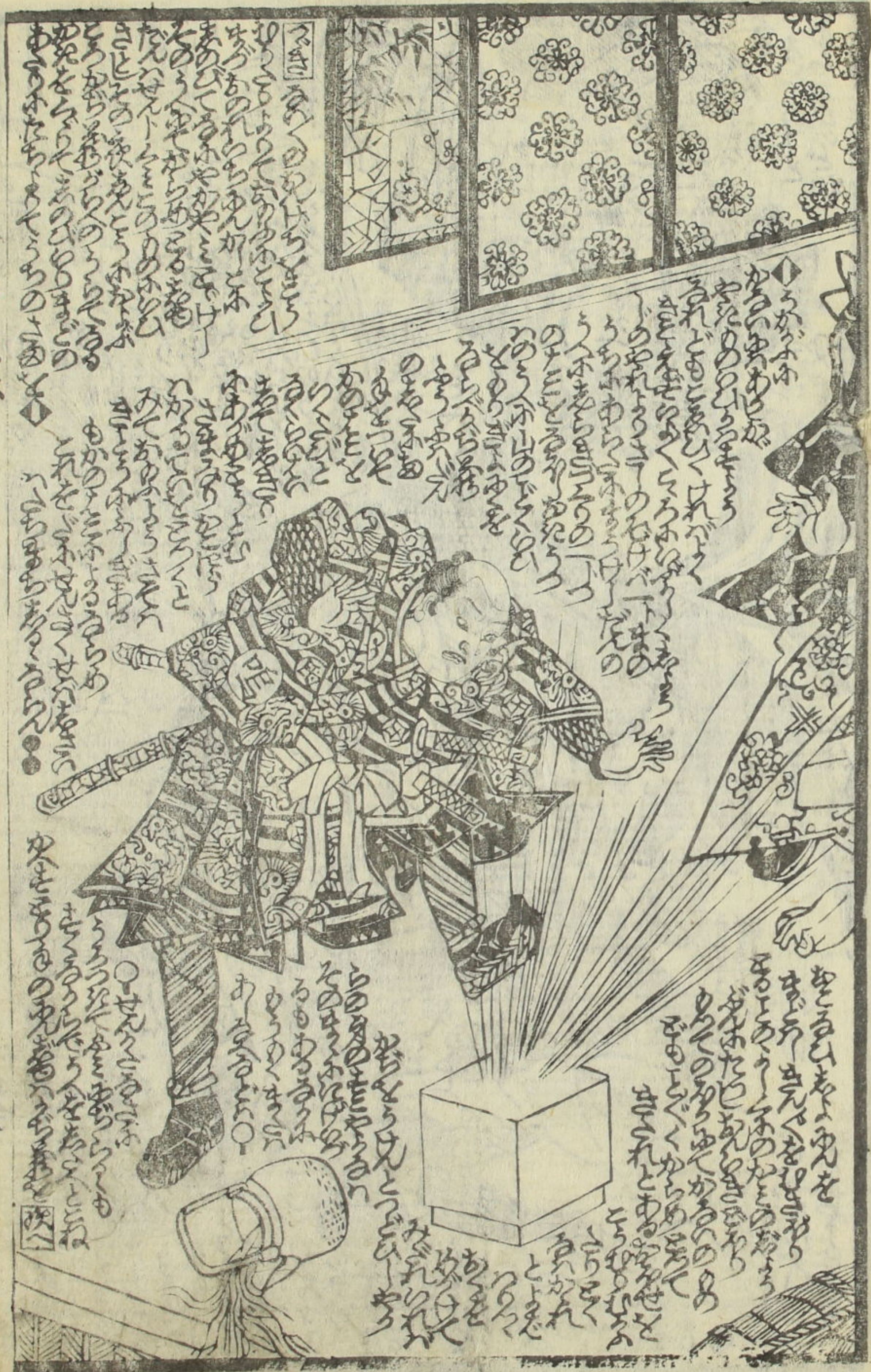


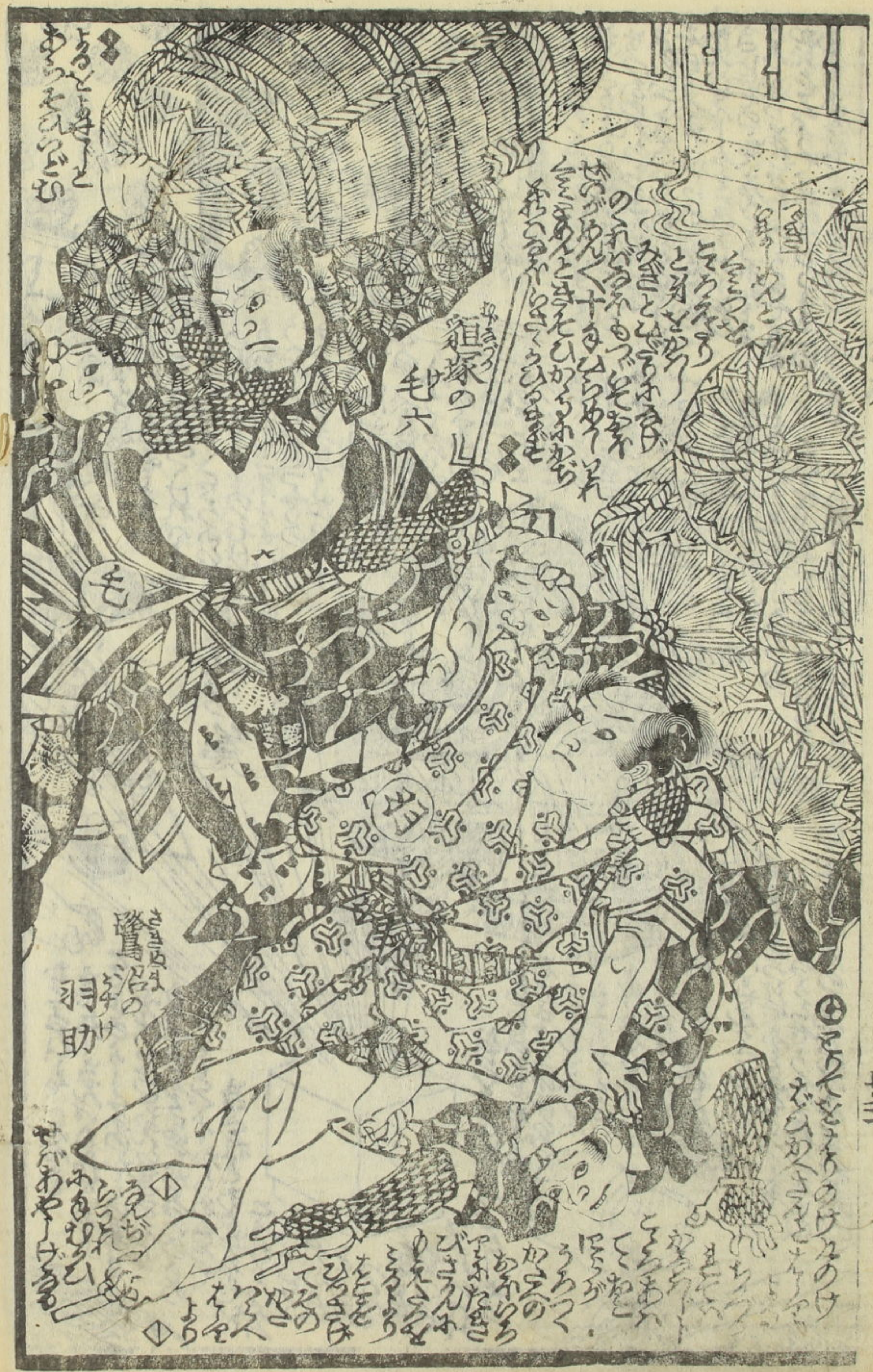
女御花六

十

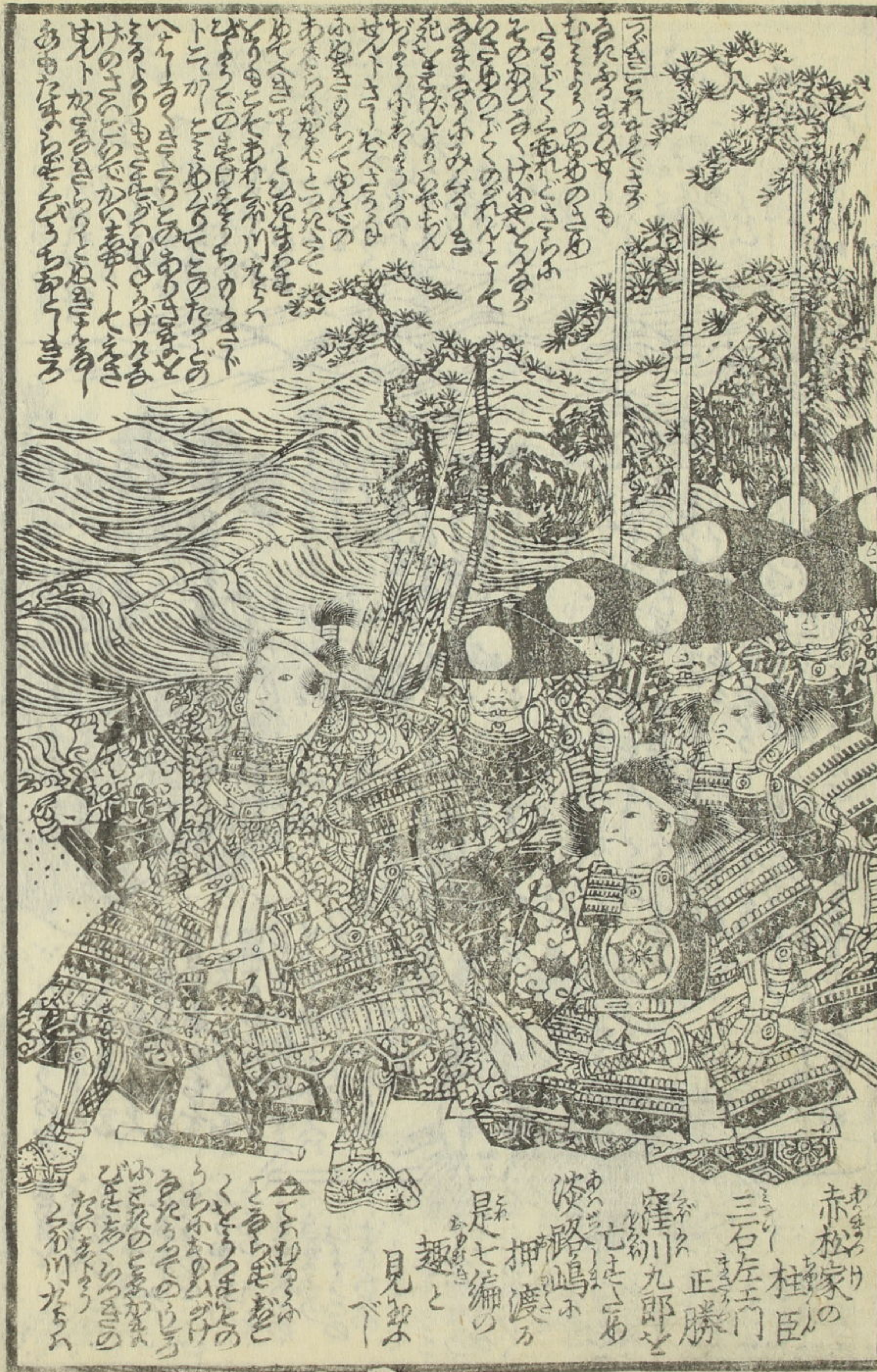


女御花六









嘉永七甲寅新板目錄

地本草紙問屋、芝神明前 和泉屋市兵衛板

小栗十騎 照天松操月鹿毛
 金沢八景
 初編 二編 三編
 春風亭柳枝作
 一雄齋國輝畫

今業平昔面影
 六編 七編
 仙果作
 芳虎画

風俗淺間嶽
 初編 二編
 種久作
 國貞画

爲永春水作
 歌川國貞画

黄金水大盡盃
 初編 二編 三編

女郎花五色石臺
 榊下真種員作
 一雄齋國輝画
 六編 七編 八編

小女郎蜘蛛心麻環
 曲亭馬琴作
 一勇齋國芳画
 三編 大尾



種員作國輝画

○つらつら、ゆも六
 とつたん、のちのち

此画ハ床机の
 左の方ハ五勇婦
 等ハ聞ゆることと
 察一葉ハ

ハエネ
 七八八ハ

